



シンガポール プラナカン 文化展 ～プラナカンの食卓～

平成 28 年度 IYEO チャレンジファンド助成事業

シンガポールと日本の外交関係は 1945 年より深まっており、二か国が外交関係を築いたのはシンガポールが独立を獲得した翌年にあたる 1966 年でした。2016 年に日本とシンガポールの外交関係は 50 周年を迎え、プラナカン文化を日本社会に広めるまたとない機会ととらえ、まだ認知度の高いプラナカン文化を広めるシンガポール・プラナカン展及び関連するイベントを開くことによって、地域の活性化や国際交流を通じた青少年の育成をねらって企画された結果、日・シンガポール外交関係樹立 50 周年記念事業認定事業として実施することができました。

横浜・山手 234 番館にてプラナカン文化展を 7 月 14 日～24 日の 10 日間の日程で実施しました。プラナカン文化を代表するニョニャウェア（磁器）を使ったテーブルコーディネート、細かいビーズ刺繍の施されたサンダルや伝統衣装、パステルカラーが鮮やかなタイルの他、プラナカン文化についてのパネルやプラナカンの結婚式写真の展示を行いました。来場者数は計 1750 名にのぼりました。

7 月 16 日には、保土ヶ谷の忍者ハウスにて伝統文化継承をテーマに日本とシンガポールでそれぞれ茶道、プラナカン文化に携わっているスピーカーを招き、講演会を開催しました。また来場者最終日 24 日には同会場にて、管理栄養士団体の「えいようのわ。」の協力のもと、シンガポールカレーやオンデオンデ（団子）を参加者と共に調理しながらアットホームなクロージングパーティーを開きました。

8 月 13、14、20 日には同会場でプラナカン料理の体験教室を実施し、管理栄養士の講師の方を招き栄養や発酵について学びながらシンガポール風おでんと呼ばれるヨントアワー（13 日）、カヤジャムサンド（14、20 日）を作りました。

[実行委員長 佐藤彩乃さん コメント]

2014 年に行われた「日本・アセアンユースリーダーズサミット」(YLS)に参加した私にとって、2020 年までにアートを通して社会をより良く変えていくことは夢であり、大きな目標でした。多様な価値観や相互理解は大変重要視されている今日ですが、先日起こった相模原での悲しい事件のように障害者など社会の中で弱者やマイノリティへの差別や偏見は未だに残っています。そこで私は様々な見方や表現方法をよとする美術によって社会は変えられたいと信じ、この度、IYEO チャレンジ・ファンドを申請して「シンガポール・プラナカン文化展」を開催しました。

YLS では「東南アジア青年の船」事業の一地方プログラムですが、志を持った青年たちが集い、そこで知り合った青年たちを中心にプラナカン芸術文化を広めることを目的に、企画を練りました。魅力的な展示にするためにはどのようにすれば良いのか、など議論を重ねた結果、広報の甲斐もあって計 1,750 名もの来場者数を記録することができたと思います。

幸い数多くのリクエストがあるほどの企画となりましたので、これからも東南アジア芸術文化の造詣を深め、広く市民が芸術文化を学ぶ場を提供していきたい所存です。

